



赤羽別院報 第32号
発行所 赤羽別院 親宣寺
〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・Fax (0563) 72-2308
Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

フクシマを福島へ



気がついたら私の住んでいるところは、カタカナで表記される福島になっていました。私達は全く意識していません。なのに、外人達は皆カタカナの「フクシマ」で呼ぶようになりました。

福島は変わってしまったのだ、あなたの知っている福島ではないのだと突きつけられているようにとても悲しく思えます。しかし、私自身もナガサキとヒロシマを自覚することなくつづけていました。

何もできていない」という声がたくさん届きました。現地でも何かしたい思いはあるが、仕事や距離のことがあり足を運ぶことができない、また、できるのは節電や募金することくらいしか。そんなふうに自分を責める方がたくさんいらっしゃいました。

節電や募金するよりも、被災地の中へ行ってみたい。被災地の中へ行ってみたい。被災地の中へ行ってみたい。被災地の中へ行ってみたい。

原発事故の前と後
去年は行けなかった花見に公園に出かけました。公園の入り口にはモニタリングポストというその場所の放射線量がわかる線量計がありました。

忘れないうで
私が今一番胸を締め付けられて涙を流す時は「綺麗な空を見た時」です。

食糧異変
うちでは永代経をお勤めする頃タケノコが出ます。毎年タケノコを調理していただいていた。春は藪の藪が出てきます。秋には銀杏がたくさ

御懇念
仏書の活動に対して二十万円の寄付金をいただきました。この浄財は、炊き出しや暖房器具・洗濯機の購入費用をはじめ、福島の子どものために一時寄留させる企画などに使わせていただきました。

門徒の声
帰敬式を受けて
報徳会がお勤めされた四月十一日、私は赤羽別院において帰敬式を受けました。

双全講
1月15日(火) 午前10時午後1時
法話 第25組 守綱寺 渡辺 晃純師

お寺の掲示板
この世の苦も楽も 浄土へ帰る 旅路の出来事なり 第十一組 浄林寺

講師プロフィール
藤内 淳心(ふじうち じゅんしん)
1981年(昭和56年)福島県に生まれる
大谷大学卒業
仙台教区 明賢寺 候補衆徒
真宗大谷派 仙台教区仏教青年会副会長
震災後、仏教青年会の仲間とBOP(仏青お風呂プロジェクト)を立ち上げるなど被災者の救援活動に積極的に取り組み、現在もその活動を継続中。

秋季彼岸会
9月22日(土) 午後1時
講師 第14組 専興寺 浅野眞理子師

別院行事のご案内
12月31日(月) 午後11時45分より
先着順にとなたでも鐘撞きできます。甘酒等の接待があります。



特集! 暁天講座

仏言広大勝解者

凡夫往生の道に立つ

赤羽別院

真宗の宗風の中に「ひたすらお念仏申し聞法につとめる」があり、聞法は真宗の心なためである。今年も七・八月の猛暑の時期に早朝の涼しい時をいただき、あちこちのお寺で暁天講座が開かれた。何れの会場も、賑やかな声の中での開催となったが、講師のお話は爽やかな心に響きわたるものであった。



処暑を過ぎ、残暑の中にも朝夕には秋らしさが感じられる8月26・27の両日、赤羽別院では恒例の暁天講座が開催された。

両日共に天候に恵まれ、午前6時の開始時間には大勢の参加者が集い、御堂内は敵かな雰囲気のおかげで浅野輪番の調声による勤行の声が響きわたった。

法話は、初日に崇教区内第8組・安楽寺住職伊奈祐詠師、二日目には第15組安城市石井町・明水寺住職職木聡師で、広範囲な分野で教化活動に活躍される両師をお招きして行われた。



赤羽別院にお参りして

第23組 願正寺 鶴見 幹

七高僧に学ぶ 八会場で開催 第11組 教化委員会

第11組の夏の恒例行事、暁天講座が8月18日より25日まで開かれました。第31回となる今年は「七高僧に学ぶ」をテーマに、真宗門徒にとって最も身近なお話としてみたいという人が多く「正信偈を取り上げ、冊子」「正信偈を知る事典」をテキストに、全8ヶ寺を会場にして開催されました。

正念寺会場では、宗門のアメリカの別院に勤務し、開教使として長年海外生活の経歴を持つ、知立・称念寺若院の伊勢研忠師が「一生悪を造る者」を講題にお話されました。

ロンドン五輪の熱狂について触れられた師は、努力(自力)で夢をかなえ、メダルを獲得した選手の姿を見て我々は感動する。自力の大切さは分かりやすいが、



正念寺会場の様子

人は様々なご縁により 生かされている

第13組 寺 明 葉

爽やかな8月9日の早朝、明葉寺の境内には33回目を迎える暁天講座が、お目めとせみの鳴き声が響きわたるなか、大勢の参加者が第9組良興寺住職・三浦真教師の法話に耳を傾けた。

師は、一年前のラジオ番組で聞いた「せみ」という題の詩を紹介された。

「自分」・「時間」・「自由」の言葉を繰り返すだけの詩であるが、妙に心に残り、発声しました。大抵、思いこれまでの人生が問い返されたと話された。

また「寿命」についてもグリム童話の一節から「ただ、長生きさえすればいいのかわかる」と、人間の欲望と浅はかりな考えを指摘された。

「健康で長寿」と願っても、燦然と差し込み、堂内は一段と荘厳なものとなった。



交流研修会 金沢別院一行ご来院

それぞれの別院が発行する機関紙は、別院の教化事業を遂行するうえで重要な役割を担っている。

当別院では「赤羽御坊」の一層の充実を期し、二月の難波別院に次いで金沢別院との交流研修を行った。

金沢教区には、金沢別院と鶴来別院があるが、金沢別院では教務所と合同の広報紙「おやま・ほう」を月刊・A4版・8頁仕立てて発行しており、その編集実務は別院が担当している。



今回は、金沢別院から担当者4名が来院され、当別院からは輪番・教化センター主幹・広報部4名が出席し、輪番から当別院の沿革等を紹介し、教化センターの組織と事業内容の説明の次いで、双方から教化活動の方法や機関紙のあり方などが披露され、活発な議論と意見交換があった。

なかでも、今後の活動についてはブログ等の活用により、若年層の方々の意見を積極的に採り出す必要が方向性を探り出す必要がある。

初夏の爽やかな風がそよぐ5月19日、願正寺同朋婦人会一行21名は、一月研修会にて赤羽別院へ参拝させていただき、別院の浅野輪番並びに職員の方々の丁寧なお出迎えをうけました。

輪番さんから御坊さんの歴史や現在の別院の活動に関するお話の中で、江戸時代には「本目山親宣寺」という武家の菩提寺に発祥し、東本願寺別院となったこと、当時の三河地区の中心的な役割を担っていたことを教えていただきました。

上らせていただいた昭和13年に奇跡な山門は、伊勢湾台風にも倒れることなく威容を示しています。



合掌

声明・作法研鑽会の案内

- 声明作法研鑽会に是非御参加下さい!
- 10月4日(木) 毎月第一木曜日
 - 11月1日(木) 午後7時から
 - 12月6日(木) 午後8時30分まで
 - 4月4日(木)
- 場所 赤羽別院お御堂
講師 儀式部 小栗 貴次師 織田 顯慶師
- 対象者 寺院 僧籍のある人は間衣・装束 輪袈裟 大谷声明集 等
- 参加料 無料
- その他 この研鑽会とは別に、本山堂衆をお迎えして「声明儀式作法研鑽会」を実施の予定です。

一年に一度は赤羽別院へ

報恩講にお参りを!

七百余年に亘り脈々と受け継がれてきた報恩講は、真宗門徒にとって、宗祖親鸞聖人にお願いできた報恩感謝の喜びを領わす最も大切な法要であります。

赤羽別院では、報恩講を次によりお勤め致します。是非お参り下さい。

10月14日(日) 初速夜 午後1時
10月15日(月) 法話 第6組 専覺寺 楠 理見師
10月16日(火) 法話 第17組 西岸寺 松林 了師
10月16日(火) 結願農朝 午前10時
10月16日(火) 結願日中 午後1時
10月16日(火) 法話 第8組 専念寺 羽向智洋師
10月16日(火) 16日はお寺の用意をしております。お誘い合わせのうえ是非お参り下さい。



二話 各組が取組む 真夏の勉強会

真城義磨師をお招きし

青年の集い・同朋教室

第8組 教化委員会

去る8月18、19の両日、第8組では講師に4年続きで真城義磨師をお迎えし夏期講座として、初日は宿務寺において「青年の集い」、二日目は浄願寺での「同朋教室」を開催しました。

青年の集いは例年夜間開催のため、殆んどが男性参加でしたが、本年は女性が半数を占めました。これは過去の実績が示す、「真城人気」というべきでしょうか。

今年のテーマは「念仏者は無碍の一道なり」でしたが、出身地である瀬戸内海の寂れる一方の島々の話から、世界を主導する国アメリカの歴史や文化の話を通じて、今日の日本の姿を的確に表現されました。

そのうえで「効率化」という言葉の裏にある「楽

をして」という心の開きの部分の核心について話されました。そのなかで、「相手が沈んで自分が浮かぶ」という、今の世相を表わした言葉が印象に残っています。

講座は、残暑の厳しい二日間でしたが、両日ともに両寺院の本堂を満堂にする盛況となり、終了後は聴聞者の一人ひとり満足感に溢れた表情を見ることができた貴重な法座でありました。



去る7月24、25日猛暑のなか、第13組の夏期真宗講座が、本浄寺並びに教養寺の両寺を会場に開催されました。

本年は名古屋同朋大学准教授安藤弥師に「親鸞聖人の生涯に学ぶ」と題してお話を戴きました。

初日は、若き親鸞聖人の苦悩に満ちた比叡山時代から、吉水での法然上人との出会いまでを中心にして話をいたしました。

また「念仏の教え」とは、何を以て本願に帰す」といふ言葉になったのではなにかと述べられました。

また「念仏の教え」とは、何を以て本願に帰す」といふ言葉になったのではなにかと述べられました。



安藤弥師をお招きし 親鸞聖人の生涯に学ぶ

第13組 教化委員会

第12組 浄徳寺

「あらためて学ぶ お内仏の名称・荘厳等について」

五月晴れの5月13日、講師に第12組・玉照寺の若院小栗寅次郎を招き、堂内に実際に使われている仏壇を備えて行われた。午前のお勤めの後、仏壇・仏具の名称やその機能(役割)等について即物的な解説が行われた。

この後、それぞれの家庭でお勤めされる月命日や法事に関し、施主側とお参りする側の双方の立場での決めごとや儀礼作法等について懇切丁寧にお示された。

お参り後は、午後後の動行の後には、各種の法要をお勤めされる際のお内



「40年の歴史 定例法要厳修」

猛暑の8月1日、西尾市戸ヶ崎町の妙専寺において「定例法要」がお勤めされた。

毎月1日にお勤めされ、昭和48年に先代が始められてから今年で丁度40年目となる。昨年、時の流れが参拝者が減り「もうやめよう」と思われたこともあったと話された。

そんな時、この日の講師・織田慶雄師から「坊守さん、あなたがお寺を重荷に思っている間は人は寄ってきませんよ。坊守

仏の荘厳の仕方について、聴聞された皆さんは、一様にこれまで曖昧だったことや誤解していたことの修正に役立っ、とても有意義な法座となったことであろう。

昨近では、家庭で営まれる法事・祥月・月命日の風化傾向が著しいが、普段なかなか得ることのできない情報が提供された本講座は、真宗の原点復帰・法義相承に大いに寄与するものと考えます。

この種の法座の継続が強く望まれます。

仁吉まつりと夕涼み大会

第9組 徳源

地域の活性化や人と人の繋がりを深めることを目的として、地域を挙げて取り組む二つの行事が第9組・源徳寺において賑やかに開催された。

今年で32回を迎えた吉良町の伝統行事「仁吉まつり」は、6月3日吉良町商工会の主催により源徳寺にて開催された。

通称・吉良の仁吉(本名・大田仁吉)は、吉良上野介義央・尾崎士郎とともに「吉良三人衆」の一人で、義理と人



尻相撲大会

夕涼み大会

「人と人が繋がる、日本の文化を、子供たちにも伝えたい」をテーマに「夕涼みの会」は吉良町上横須賀地区が、地域を挙げて初めての行事として7月21日に開催された。

まり、終日大勢の参拝者が訪れ香煙が漂っていた。

広い境内や参道には茶席・模擬店や屋台店が立ち並び、門前市を賑がることができ、揃いの法被姿の「吉良小唄総踊パレード」や子ども「尻相撲大会」がまつりを盛り上げた。

源徳寺は仁吉の菩提寺で、高さが3米を越す次郎長により大親分や兄弟分の次郎長により建立されたものである。



すいか割り

夕刻から大勢の老若男女が源徳寺に駆けつけ、子供たちは思い思いに、将棋・コマ廻し・西瓜割り・花火等を楽しみ、肝試しも行われた。

「遊びの楽しさ」を子供たちに覚えて欲しいとの目的が充分達成できたいものと思われ、この会が来年以降に継続されることが望まれます。



第10組 妙専

自身がお寺を好きになれば、自

然と人は寄ってきます」との言葉

葉を戴き、坊守さんは「目から鱗が落ちる」思いだったと話された。それからは積極的の門徒さんに声をかけ自身も開法者の一員となつた。今では毎回20名を超す聴聞者が訪れるようになったと話された。

今回も26名の方が講師の軽妙なお話に耳を傾けたが、勿論、この中に熱心に聴聞される坊守さんの姿が見受けられた。

創ろう未来を 地域とともに

JA西三河

人と自然の出会いとき

A・COOP

〒445-0073 西尾市寄住町下田15
TEL(0563)56-3341 FAX(0563)57-0008
http://www.ja-nishimikawa.com

おかげさまで創業112年

仏壇・墓石

お洗濯 仏具 寺院仏具

西尾店 年中無休
西尾市徳次町下十五夜 38-1
TEL 0563-57-0763

碧南店 水曜定休
碧南市栄町 2-115 (栄町けんしん東)
TEL 0566-46-7610

愛知県下に13店舗!
心づながるやすらぎのネットワーク

永田竹佛壇店 TEL 0120-150-761
上記店舗にご来店の際は、この広告をご持参下さい。粗品を重量致します。

御懇志披露

赤羽御坊新聞懇志(敬称略)

・源徳寺
・石原美根子

貴重なご懇志を
ありがとうございました

人間模様 その11

十五年間の永きに亘り、教区の門徒会役員として活躍されるなかで、平成11年からは門徒会会長の重責を担われ、本年3月その任を退かれた真宗門徒の鑑ともいえるべき...



アルバムを前にして

「お寺との係わりはいつ頃からですか。私の手次寺は高浜のお寺ですが、村のお寺である光専寺さんの役員を昭和五十五年から三十余年お勤めし、こちらが今年の春退きました。」

期中で一番の思い出は。やはり昨年の御遠忌が一番の思い出です。岡崎教区讃仰事業を立派に勤めあげたため、一ヶ月に16回の会議が開かれ、それが半年にも及び、心身ともに大変でした。

めされた時、御門首さまと親しくお話をさせて戴くなかで、御門首さまの御遠忌に対する篤い想いをお聞かせ戴いていたことが原動力となり、私も本気になった訳です。

エッセイ 赤い羽根の青い鳥

あなたは見られている

「魔法の花園」に辿り着いたチルチルとミチル。彼らはそこで「幸福」と名乗る見知らぬ存在に出会う。「幸福」は彼らに言う。「僕たちはいつだって貴方たちの周りにいるんですよ。」

第5回 子ども絵画展

第5回赤羽御坊子ども絵画展には、テーマ「家」の部10点及び自由部門90点の応募をいただきました。今回はこれまでに増して力作が多く寄せられたことが特筆されます。

御坊俳壇・川柳

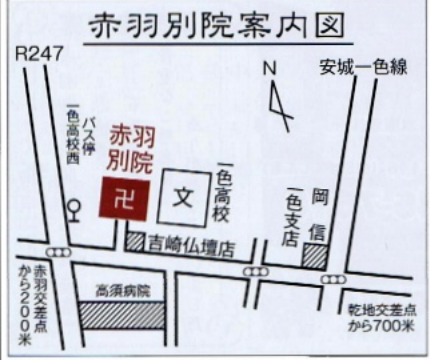
俳句 明けの鐘 蟬抱らず 鳴き頻る 谷 水甫
夕昏れて 虫の浄土と なる寺苑 石川 松葉
母の名を なる指先 慕洗う 古賀 敦子

敬弔

櫻部 建 師 第9組・正覚寺 前任職 6月9日逝去 86歳
大深 正明師 第9組・正覚寺 住職 6月23日逝去 60歳

人事

平成24年8月1日発令 列座見習 太藤 裕子師 第11組浄徳寺 若坊守
太藤師は就任に当り、「世間を生きていることと自分が自分であること。この本来自ら立世ないものを而立せざる王が世自在王仏である」と



赤羽地域教化センターウェブ
http://www.katch.ne.jp/~akabane_betuin/
携帯からのアクセスはQRコードから
お寺の法語掲示板をみてみよう

日本中の人々が熱狂し、寝不足になったロンドン・オリンピックや原発再稼働、消費税増税などで迷走する政局の話題とともに、今年の夏も去りゆき、秋の秋を迎えようとしています。